

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアと玄関内に理念を掲げ、全職員が「共通の意識」として持ち、より良いケアの実践に向け取り組んでいる。また、常に「原点」と捉え振り返りを行い、日々心掛けている。	ホーム理念が玄関フロアや各階ホールの壁に誰にもわかりやすいように掲げられている。職員間でも理念について常に立ち戻るように話し合いを深め、日ごろの支援につなげている。職員に、理念にそぐわない言動があった時には管理者が個別に気持ちを聞いて助言している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	職員1人ひとりが「地域の一員」であることを自覚し、ご利用者・ご家族・地域等の「架け橋」となれるよう心掛けている。また積極的に地域活動・外出等に参加できるよう支援している。	自治会に加入して会費を納めている。防災訓練・清掃活動等の地域活動には積極的に参加し、その機会に事業所の様子を伝え地域の人々に認知症についての啓蒙にも取り組んでいる。今年度は新型コロナ禍ということで自粛ぎみとなっているが例年であれば公民館のサロンや学校行事に招待されたり、地域ボランティアの来訪があったりと活発に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町の福祉交流会で日々の取り組み、動画を作成し日常の様子等を発信・紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の構成・取り組み等について報告や話し合いを行うことで、サービスの見直しやアイデアをいただき改善を図っている。また同時に事業所のサービス向上に活かしている。	年6回、奇数月に開催予定としていたが、新型コロナ禍のために今年度は資料を送付して報告する形となった。家族、民生委員、区長、消防団員、町包括支援センター職員、保健福祉課職員、ホーム職員というメンバー構成になっている。例年の開催時には意見やアイデアをいただき、それを支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター・保健福祉課等、連絡・連携を取りながら、情報交換も行っている。また事業所で作成している「新聞」を届け日々の取り組みを積極的に伝えている。	町役場にホームの新聞を届けながら待機者状況等を報告して、随時相談することで協力関係を築いている。町から認知症に関する講師派遣依頼もあり同エリアの法人内の事業所ともに対応している。介護認定更新時の面接はホームで行い、家族を含めて職員も立ち合い情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議内で定期的に内部研修を実施し、職員全員研鑽に努めている。また入居者の話を聞き、思いに寄り添い不穏な感情を減らす支援に取り組んでいる。	玄関は日中、開錠している。ユニット毎の入口は安全のために施錠されているが、希望時はすぐ開けられるようになっている。拘束を必要とする方や外出傾向の強い方は現在いないが、様子を見てストレスがたまらないように散歩にお誘いしている。定期的に拘束をしないケアの内部研修を実施し日ごろの支援の中で拘束ゼロに向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者1人ひとりが問題を抱え込まないように配慮し、些細な変化や希望に応えられるよう望ましい認知症介護に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用して生活されている方もいる為、生活の様子や変化を電話や新聞等で伝えられている。関係者と関わりあう事でその理解と円滑な活用を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点、不安材料が残らないよう説明し、理解していただけるよう心掛けている。また契約後も不明な点等があれば、いつでも連絡していただくような関係性を築くよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、ガラス越しでの面会で、ご迷惑をお掛けしているが、来ていただいた皆さまから意見、要望を伺っている。また、ご利用者からは、言葉・動作・表情等で心境を汲み取るよう心掛けている。	ほとんどの利用者は要望を伝えることができる。若干名の方は表情やしぐさからくみ取るようにしている。新型コロナ禍で家族の来訪は限られ玄関でガラス越しの面会となっているが、来訪時には意見や要望を伺うようにしている。毎月発行のホーム便りと個人の写真を送って日常の様子をお知らせして家族からは喜ばれている。開催できる時は運営推進会議に併せて家族会を開き、昼食をとりながら交流を図り意見を聞き運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、職員との個人面談を実施し、想い・悩み等を聞きながら、メンタル面のケアにも取り組んでいる。また運営に関して出された意見にも耳を傾け、業務改善に反映させている。	月1回、職員全体会議とフロア会議が開かれている。運営面からの報告もあり、支援に関しては活発に意見交換をしている。年2回、自己評価票に基づき管理者による個人面談があり意見を述べる機会ともなっており、業務改善に反映されている。新年会など法人内事業所の集まりがあり、交流が図られている。各ユニットの職員は定期的に異動することでホーム全体が見え、各職員の立場や役割も知ることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価票を活用し、職員が目標を立て、やりがいや向上心を持ち業務に就けるよう取り組んでいる。また個人面談や日々の会話の中から思いを聞き、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人のレベルに合わせて外部研修に参加・学べる機会を確保し努めている。また、現場においても個別に指導教育をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域福祉交流会や運営推進会議等で、他事業所との意見・情報交換に努めている。また内部・外部研修や事例発表会に参加し、職員と共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在の様子から、これまでの経緯や情報を理解し、職員間で情報共有することにより、不安や緊張を極力なくせるような環境作り等に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の介護負担や困っている事等、しっかりと傾聴し受け止め、今後の支援についての要望や思い・ご意見を伺いながら、質問にも丁寧にお答えし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要としている事のアセスメントし、適切なサービスのご紹介に努めている。施設見学時には、同法人近隣のデイサービスや小規模多機能も紹介・見学していただきサービスの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ、食事作り、食後の片付け等、その方が出来る事は積極的に参加していただき、一方向ではなく相互に「ありがとう」を伝え合える関係を築けるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い、ご本人が現在どんな健康状態、心境でいるのかを伝えている。その中で家族の可能な限り、本人さんの状況に応じて、面会や外出等の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚、親交が深かったご友人等の訪問を大切に、プライベートな時間をゆったり過ごしていただけるよう支援している。近隣のスーパーへの買い物や、思い出の場所にドライブ等、支援に努めている。	知人・友人の来訪を大切にしているが、現在は新型コロナウイルス禍にあり自粛している。そうした中、行きつけの美容院に感染症対策をして出かけ、帰りには自宅に寄り、ゆったりとした時間を過ごしてくる方もいる。受診の際は少し足を延ばして馴染みの店で買い物をし、馴染みの店員と言葉を交わすなどの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事活動等、共に楽しみ活動できるよう支援し、ご利用者同士が円滑にコミュニケーションを図れるよう、職員が役割を担っている。相性等を見極め、座る配置や環境整備等にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院等では、ご家族に経過や意向を含めご連絡や面会を行い、ご相談いただける関係性を大切にしている。主治医やケアマネ等情報共有を行い、状態に合わせた施設の支援方法の説明を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションで、希望・意向に沿った支援に努め、柔軟な対応を心掛けている。把握が困難な場合、生活歴やご家族に情報を伺い、ご本人の表情や行動をアセスメントし支援している。	ほとんどの利用者が思いを表出することができる。職員は利用者の気持ちを決めつけて判断しないように努めている。何か提案する時はできるだけ複数の選択肢の中から選んでいただき希望に沿うようにしている。職員はホームの暮らしの中でふと話された思いを連絡ノートや個人記録に残して共有するようにし、支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や特技等ご本人やご家族、前任ケアマネから生活歴やサービスの関わりも含め、いただいた情報をカンファレンスで共有し支援に繋げている。ご利用者1人ひとりの生活環境の整備にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中や夜勤の様子は申し送りや個人記録や申し送りノートを活用し、状態把握に努めている。またご本人の「自信」に繋がるような活動への参加を促したり、心身の状況変化に気付くよう、寄り添い傾聴に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族等からご要望を伺い、ユニット別会議で職員が気づきや意見を出し合い、主治医等医療関係者の意見も反映し、総合的にアセスメントを行い取り組んでいる。	職員は2~3名の利用者を担当している。フロア会議でケアに関する検討会を持ち、半年に1回介護計画の見直しとモニタリングを行っている。家族の意向については直接聞けない時は電話にて伺いケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体・心身状況に合わせたケア方法について、職員の意見を積極的に支援に取り入れ実践・記録を行い、改善や根拠に基づいた支援であるか、また担当職員が評価を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況に合わせ、ご本人やご家族と相談し福祉用具の活用や、医療関係者との連携を行っている。近隣の同法人デイサービスや小規模多機能との交流を図り、ご家族との外出や外食、通院支援にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域商店街の散策や、スーパーへ買い物に行ったり、学校行事への参加も積極的に行っている。地域の美容院や病院のご協力もいただき、地域資源の利用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	柔軟な受診・往診のご協力をいただき、複数の協力医療機関と入院先での主治医が連携を図って下さり支援している。協力医療機関の案内や提案の際、ご本人やご家族に納得・同意をいただいでから支援に繋げている。	ほとんどの方が利用前のかかりつけ医を継続しており、若干名の方は法人クリニック医師の往診を月2回受けている。かかりつけ医は地域にある総合病院で、利用者と医師との信頼関係ができており家族同伴の受診も継続できている。新型コロナ禍での受診は職員が対応することが多くなっている。歯科はホーム協力歯科医による往診が可能となっている。ユニット毎に看護師が1名ずつおり、日頃の健康チェックや相談もでき、利用者や家族、職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は些細な状態変化も看護職員に申し送り、迅速な対応で体調管理に努めている。また、主治医や病院と相談・連携を図り、依頼しやすい関係性を構築し協働に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活状況等を伝えていく。退院するにあたっては地域連携室と連絡を取り合い、病院からの情報をもとに退院後は安心した生活を送っていただくよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期における事業所の対応力や協力医療機関の体制をご本人・ご家族に説明し意向を伺っている。状態変化に合わせ、ご家族の思いに寄り添い、職員と話し合いご家族の理解・協力の元、主治医・病院と共にチームケアに努めている。	利用契約時に重度化した場合の対応について説明し、重度化事前同意書を頂いている。状態の変化に合わせて利用者と家族の思いを受けとめ、医師や職員は方針を共有しチームケアに取り組んでいる。昨年度は3名の看取りを行った。急変時の看護師・責任者への連絡マニュアルもあり職員は連携をとりながら対応している。亡くなられた後も時々家族がホームに立ち寄り下さることが職員の励みとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を通じて急変時等の対応について学び、実際に事が起こった際は実践出来るように努めている。また緊急時対応マニュアル・緊急時連絡網を作成し、指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災・避難訓練を実施し、内1回は実際に地域の消防署の立ち合いを依頼し、指導を受けている。また運営推進会議内でも有事の際の協力をお願いし、物品購入や備蓄も行っている。	年2回、6・12月に避難訓練を実施しており、うち1回は消防署立会いの下行っている。火災や地震を想定して利用者は玄関の外やベランダに避難している。状況によっては近くの民家に大声で助けを頼むこともできる。地域防災訓練時には職員も参加しホームの様子を知らせ、地元の協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修やカンファレンスで、基本の挨拶や言葉掛けについて職員個々が意識を高めるよう指導している。入浴や排泄は羞恥心の配慮を行っている。新人職員や実習生に、守秘義務や個人情報取り扱いについて指導も行ってはいる。	研修で学びながら、あいさつやことばがけについては利用者の誇りを傷つけないように接している。名前は家族の希望もあり地域の慣れ親しんだ呼び方で「〇〇ちゃん」と呼びすることが多いという。新人職員や実習生には守秘義務や個人情報の取り扱いについて指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や口調、非言語的コミュニケーションからご本人の意思を汲み取り、柔軟な支援に努めている。お誕生日メニュー等、共同生活でありながらも自己決定できるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態変化に合わせ、入浴や就寝時間等出来る限り意向に沿った柔軟な対応を心掛けている。ご利用者個々の生活リズムやペースに合わせ、その人らしい暮らしを支援できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地や好みの色、季節や外出に合わせ出来る限りご本人が自己決定しやすいよう努めている。散髪前には、ご本人やご家族に意向をお伺いしたり、お化粧品やおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や行事食・バイキング等、食事を楽しめる雰囲気作りも大切にしている。盛り付けや配膳、おやつ作り等、職員と一緒にしていただくことで、食べる楽しみが増すような支援を心掛けている。	全介助と一部介助の方が数名ずつで、大半の方は自力で箸や自助具を使い食事を楽しんでいる。法人から献立表が送られ調理専門職員が食材準備と調理を担当している。利用者は皮むき、味見、食器拭きなどのお手伝いをしている。ホームの畑ではジャガイモを中心に季節の野菜を作り、近所からは果物・野菜の差し入れが多くあり、食卓を彩っている。誕生日の特別メニューについては利用者に希望を聞いているが、赤飯、煮魚、煮物が人気で楽しんでいるという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体重や疾患に合わせ、水分摂取量や食事量を明確にし、情報共有を行い支援している。咀嚼状態に合わせ、一口大や刻み、ミキサー対応を行い食事姿勢にも配慮している。定期的な体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、夜間は義歯をポリデント消毒、口腔ケアセットはハイター希釈消毒を行い清潔保持を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの適切な使用や尿路感染症、自尊心への配慮をフロア会議・内部研修等で勉強し、個々の排泄リズムを把握し、定期的な誘導や排泄を記録している。排泄姿勢など自立に向けた支援を心掛けている。	自立の方は若干名で、ほとんどの方は何らかの介助が必要となっている。布パンツ、おむつ使用の方は若干名で、あとはリハビリパンツにパットを使用している。排泄の自立に向けて個別のケア検討を行い、パットの種類を変更するなど、状態に合わせて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を確認しながら、便秘予防に乳製品や果物等、個々の意向に沿った支援に取り組んでいる。必要な場合、主治医に相談し、服薬にて排便コントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り個々の意向に沿った、入浴時間(午前・午後)を支援し、変更も柔軟に対応している。身体状況に合わせて2人介助を行い、時期に合わせて季節感を感じていただけるような取り組みを心掛けている。体調変化に合わせ、足浴・全身清拭対応も行っている。	自立の方と全介助の方が若干名ずつで、大半の方は一部介助で入浴している。週2回、時間は利用者の希望に合わせて午前か午後に入浴している。柚子湯やリンゴ湯等、季節が感じられるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間は出来る限りご本人の意向や、その日の睡眠時間、体調に合わせて柔軟に対応している。体調管理等で午睡を促し、夜間眠れない時や不眠が続く場合、主治医に相談し服薬コントロールを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	研修を実施し、服薬ファイルを作成し入居者1人ひとりの内服薬について把握するように努めている。誤薬が起こらないよう服薬する直前に3重チェックで対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食事の準備等、家事を役割とし生きがいを持っていただけるよう支援に努めている。買い物や散歩、年間行事を計画し活動を促し、気分転換を図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族のご協力で外出や外食支援を行い、散歩や買い物、地域のイベントに出掛け参加している。またレク活動での外出時には、計画書を作成し、事故等がないよう注意喚起を行っている。	新型コロナ禍で行事外出は控えているが、近くの銀杏並木や桜の花見に4~5グループに分けてドライブに出かけている。日常的にはできるだけ身体を動かすように、台拭きや洗濯物干しなどお誘いして歩くようにしている。ホームの畑に出たり、数種類の体操に取り組むなど気分転換を図っている。また、移動図書館を利用して読書を楽しまれている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談し管理者が小口現金としてお預かり管理している。消耗品やおやつ等、欲しい物は、お小遣い(小口現金)があると説明し、買い物支援等で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話いただいたり、希望があれば連絡しゆっくり会話ができるよう配慮し、ご利用者に取り次いでいる。届いたお手紙が読みにくい場合は、代読させていただき、年賀状も送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗濯物を干し景色を眺めたり、季節を感じていただく。落ち着いた居心地の良い空間作りを行い、トイレやポータブルトイレは適宜清掃を行い衛生管理を心掛けている。敷地内の畑では家庭菜園の収穫を楽しんでいたたりしている。	玄関や居間・食堂は広々として、大きな窓からの陽当たりも良く、明るく落ち着ける空間となっている。壁には利用者の習字等の作品や写真が飾られ生活感がある。畳敷きの小上がりがあり、二人掛けの椅子も置かれ、利用者同士で談笑する場面も見られ、心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋や2人掛けチェア、食堂、小ホールを活用しプライベートで過ごせる配慮や、仲の良いご利用者が談笑できる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある家具等を置くようにしたり、必要な物がある場合は家族に相談して用意するといった支援を行い、快適な環境を提供出来るよう努めている。	居室は十分な広さがあり、ベットや収納庫が備え付けられている。自宅からは利用者馴染みのタンスやハンガーラック、いす、テレビなどが持ち込まれて使いやすい配置されている。タンスの上には手作りの編み物作品やぬいぐるみ、家族写真などが置かれ、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態や変化を情報共有し、出来ることの支援に努めている。手すりの設置や、トイレの表示、居室と認識しやすいようご家族の写真等、飾らせていただき工夫している。		